

跡地活用検討の方向性の整理について

1 これまでの協議会で多くの議論がなされてきた施設・機能

	跡地への導入が考えられる施設・機能に係る各委員の意見 (第 5 回協議会資料中の各委員からの意見を抜粋)	検討の方向
文化ホール・図書館	○ 現区民文化センターに向かう道路には坂や段差が多いため、今後、高齢化が進むにつれて、区民文化センターの利用者が減少すると考えられる。近い将来、建替えを考えなければならない時期が来るが、その際には、平地である跡地の方が良い。 ○ 多くの区民が現区民文化センターの利便性に不満を持っており、この声を無視することはできない。しかし、耐用年数を考慮すると、病院南館解体後すぐに文化センター・図書館を整備することは難しいと思われる。 ○ 現況よりも人を呼び込み、跡地周辺に賑わいを生み出すためには、現区民文化センターの耐用年数等の課題を超えた視点に立って、文化・芸能等に関する公演や市民活動を行うことができる、市北部の拠点となる施設が必要である。 ○ これまでの議論の中で、現区民文化センターの移転は、住民の要望は高いものの耐用年数等の事情から、すぐの実現は不可能である。当面は多機能的広場にコミュニティセンターを併設し、現区民文化センターの建替えの時期が来たときに、この場所へ移転する。	① 跡地への「文化ホール・図書館」機能の導入は、地元の強い要望である。 ② これらの機能の導入は、安佐北区民文化センター・安佐北区図書館の移転をセットで行わないと困難であり、相当先になるという市の考え方が示されている。 ⇒これを乗り越える方法について議論する必要がある。
看護系、医療技術系、福祉系の学校	○ 高齢化等の進展に伴って、今後、より必要性が高くなる看護系、医療技術系の人材を育成することができる。 ○ 北館病院と連携し、効率的に学生の看護、医療技術の実習を行うことができる。 ○ 学生や教職員など学校関係者が集まることで、地域における賑わいの創出や経済効果が期待できる。 ○ 他地域からの入学も見込まれるため、若者の定住人口の増加が期待できる。 ○ 安佐北区内の医療・福祉機関への就職につながり、若者の人口流出の抑制が期待できる。 ○ 可部自治連からの提言において、アンケートで 3 位となっている。また、教育機関からも積極的な事業参画の意向が示されている。 ○ 教育機関が事業参画する場合は、地域の賑わいの創出のため、学内のホールやグラウンド、保育施設等の地域開放を求めたい。	① 跡地への「看護系、医療技術系、福祉系の学校」機能の導入について、跡地活用に関心を示した教育機関は、1 ヘクタールの場合、現時点では購入するかどうかは決めかねている。 ② 2 ヘクタールの場合についても、国の許認可等もあることから、後で約束が違うという状況になることを懸念している。 ⇒このため、「看護系、医療技術系、福祉系の学校」機能と「文化ホール・図書館」機能の両方を跡地に導入するためには、まずは、当該教育機関に地域の思いなどを十分に理解していただいた上で、行政に調整してもらうような展開を考える必要がある。

2 その他の10項目の施設・機能

	跡地への導入が考えられる施設・機能に係る各委員の意見 (第5回協議会資料中の各委員からの意見を抜粋)	検討の方向
子供向け施設	○ 複合的・一体的な導入が考えられる施設・機能の組み合わせ中で、現在、安佐北区総合福祉センター内にある常設子育てオープンスペース「スマイルあさきた」を移転して、新たに「チャイルド館」を整備することを提案する。	「文化ホール・図書館」及び「看護系、医療技術系、福祉系の学校」機能の導入について、一定の見通しを立てた後に、その他の10項目の施設・機能の取扱いについて議論するのがよいと考えられる。 しかしながら、跡地に導入されることになる施設・機能の実際の運用は、早くても約8年後となる。 ⇒こういったことも考慮すれば、以下の視点に立った議論も必要である。 ① 人口減少に歯止めをかけるための若者の将来志向はどうであるのか。 ② 育児支援をして、住みよい街にする施設・機能はどうか。 ③ 跡地を活用・利用する区民のために「何をなすべきなのか」。
コミュニティセンター	○ 将来、跡地を区民文化センターの移転候補地とすることを前提に、それまでの間は、神楽等が定期的に上演できる多目的ホール、区の魅力や特色を生かす施設、区を紹介する案内所、区の地産品の展示ギャラリー、産直市場を併設することにより、市北部の拠点として、広域的なまちづくりの中心的役割が期待できる。	
子育て世帯向けの公園・イベント広場、屋根付き野外ステージ	○ 大型遊具等を整備すれば、近隣の子どもや親子連れなどが楽しむことができる。 ○ 区民文化センターの移転が実現するまでの経過的施設として、遊具を備えた大規模な子ども広場に野外音楽ホールや神楽上演舞台、コミュニティセンターを併設した多機能的広場とすることで、近隣市町との文化交流の増進を図り、200万人広島都市圏構想の推進、北の玄関口としての賑わいの創出が期待できる。	
産直市場	○ 都市・農村間における住民の交流や情報交換により、地域の活性化を図ることができる。 ○ 地域外から人が集まることで、賑わいの創出が期待できる。	
ショッピングセンター	○ 可部自治連からの提言を優先すべきであり、その中でアンケートの2位となっている。	
レストラン	○ 北館病院の患者や見舞客の昼食等の場所として、有効に利用されることが期待できる。 ○ 可部自治連からの提言を優先すべきであり、その中でアンケートの2位となっている。	
サービス付き高齢者向け住宅	○ 急速に進む高齢化に対応するための介護・医療機能を備えた施設・機能が必要である。	
保育施設	○ 託児場所を設けることで、子どもの院内感染を防ぎ、北館病院の患者や見舞客が安心して来院することができる。 ○ 「住みたい、住んで良かった」といえるまちにするためには、特に子育て中の若い世代を支援する施設・機能が必要である。	
総合体育施設	○ 複合的・一体的な導入が考えられる施設・機能の組み合わせ中で、「健康づくりコーナー(フィットネス、トレーニング)」の整備を提案する。	